

2020 年 3 月 17 日

通貨ニュース

韓国:BOK が臨時会合、50bp の利下げを決定

韓国銀行(BOK)は16日、臨時の金融通貨委員会を開催し、政策金利(7日物レポ金利)を0.75%へ従来から50bp引き下げると発表した。政策金利据え置きを決めた2月会合以降、新型コロナウイルスの感染拡大で世界景気の減速に対する懸念が台頭。金融市場のボラティリティは大きく増した。公表資料によれば、金融市場の安定性を回復し、経済成長やインフレへの影響を軽減するには、今回の追加利下げが必要との判断に至ったという。前日15日にFRBが決定した100bpの緊急利下げもBOKの背中を押したとみられる。

また、今回の利下げに伴って、BOKは銀行向け貸出支援ファシリティの適用金利も、従来の0.50~0.75%から0.25%へと引き下げた。新型コロナウイルスの影響を受ける中小企業向け等については金利負担が50bp軽減されることになった。事業主や地域の中小企業に的を絞った金融支援強化の一環といえる。

さらに、BOKは公開市場オペレーションにおけるレポ取引の適格担保の対象を拡大した。2020年4月1日以降1年間、銀行法で設立された産業銀行や中小企業銀行、農協銀行、輸出入銀行等の発行する金融債があらたに担保とみなされる。ヘアカット率は国債等のリスクフリー資産より高めの設定になるものの、資金調達環境の改善からマネーマーケットの安定化につながりそうだ。金融債の発行条件改善につながれば、上述の貸出への好影響も期待される。

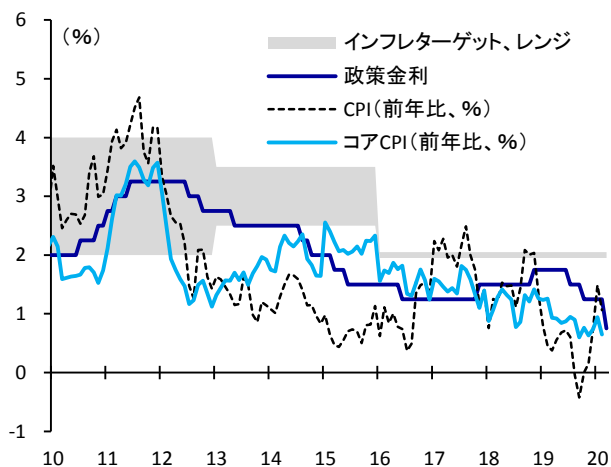
なお、李総裁は会見で、新型コロナウイルスの感染拡大規模は想定以上であり、2020年の成長率は下振れするとの見解を示すとともに、どの程度になるかは感染拡大が進む中で具体的に示すのは困難と述べた。そのうえで、あらゆる手段を用いて経済状況の変化に対応するとし、必要であれば国債買い入れも辞さない姿勢をみせた。利下げ余地が乏しくなってきたこともあり、従来否定的であった量的緩和がよい選択肢となってきたことがうかがえる。

今回のBOKの追加利下げ等の措置により、観光における新型コロナウイルスの経済的影響への政策対応は出揃いつつある。韓国政府と与党は新型コロナウイルス対策として11.7兆ウォン(GDP比0.8%)の補正予算案を国会に提出、国会で審議が続いているが、与党内では15.0兆ウォンや18.0兆ウォンへ拡大させる動きもあるようだ。経済からは40兆ウォン必要との声もある。金融政策にせよ財政政策にせよ、景気下支え効果を拡大する方向にあることは確かだ。

もともと、政策が総動員される中であっても、KRWは対ドルで約10年ぶりの安値圏にある。資金流出懸念は市場で根強いといえるかもしれない。現状のところ韓国の外貨準備に不安はない。ただ、市場を安心させるには、いざという際の外貨調達手段、特にハードカレンシー(ドル、ユーロ、円)国との通貨スワップ協定は確保しておきたいところ。足許で、米国との通貨スワップ協定締結を韓国が検討しているとの報道もあり、その行方に注目したい。

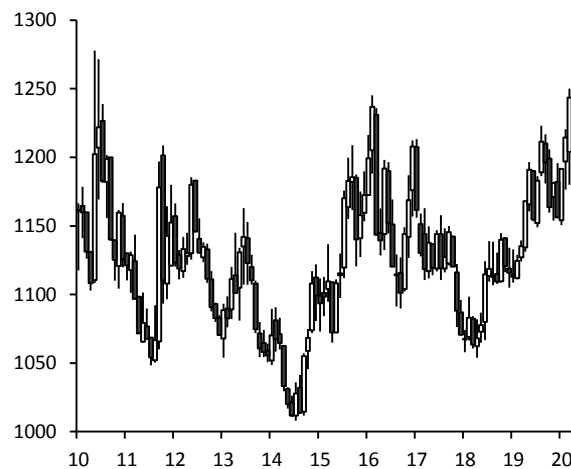
市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀内 隆文
03-3242-7065
takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

図表 1: 政策金利とインフレ動向



(注)インフレターゲットは 2016 年以降、レンジを設定せず 2%に出所: BOK、CEIC、みずほ銀行

図表 2: USD/KRW 相場



(注)2020 年 3 月 17 日時点
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。